

ごみ問題はどう解決できるのか？

3年2組15番 下村 晴

3年3組32番 待鳥大奈

Keyword: 「ごみ」「リサイクル」「プラスチック」「環境問題」「持続可能社会」

1. はじめに

私たちの生活にとって、ごみは切っても切り離せない存在である。コンビニやスーパーに行けば、たくさんの包装材が使われ、家庭からは毎日のようにごみが出る。私たちは「なぜこんなに多くのごみが出るのか」「このままで環境は大丈夫なのか」という疑問を持ち、この研究を始めようと思った。

2. テーマ・問いについて～

ごみ問題には、焼却や埋め立てによる環境汚染、リサイクル率の低さ、そしてプラスチックごみによる海洋汚染など、さまざまな側面がある。日本は世界でもごみ焼却施設が多い国である一方、プラスチックごみの発生量は世界の中でもトップクラスだといわれている。そこで私たちが注目したのが身近にあるレジ袋である。数年前に無料だったのが有料になりプラスチックの削減になっていると思っていた。だがこれを機に家の中から一つ消えたものがある。それは今まで買い物でもらっていたレジ袋を家で保管するスペースである。家のゴミ箱やキッチンに設置していたゴミ袋を今までは無料でもらっていたレジ袋を活用していたけど、有料化になったことでレジ袋を使わなくなった。それならば、今まで使っていたものは何で代用しよう？という疑問が生まれてきた。するとそれはゴミ袋を買って家に設置していることがわかった。実際にアンケートをとったものが図2である。せっかく有料化までして削減したのに買ってしまったら使用している量は変わらないのではないかと思いますこのテーマをたてた。

家で使うゴミ袋専用を買っていますか？

◎ 87 回答

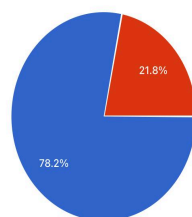


図1

～先行研究～

そこで本研究では、①日本におけるごみの現状を明らかにすること、②その課題を整理すること、③改善に向けた可能性を考えることを目的とする。レジ袋を削減する研究は、2020年7月に始まったレジ袋の有料化が、レジ袋の材料である高密度ポリエチレンの販売量にどんな影響を与えたかを調べたものである。2007年から2023年までの販売データを使い、DID、SCM、SDID

という分析方法で政策の効果を確かめている。その結果、有料化のあとに一人あたり約1.097kgの減少が見られ、全国では約138.8億枚のレジ袋が減った計算になった。特にSDIDという手法では統計的に有意な差が出ており、有料化によって確かにレジ袋の供給量が減ったことがわかった。また、時系列で見ても同じような傾向が確認されている。ただ、データは素材の出荷量を使っているため、実際に店や消費者が使った数までは正確にはわからない。それでも、有料化がプラスチックごみの削減に効果があったことを示す結果になっている。

3.本論

環境省の調査によると、日本のごみ排出量は年間約4000万トンにのぼる。その中でも特に問題となっているのがプラスチックごみであり、リサイクルされている割合は高いように見えても、その多くは「サーマルリサイクル」と呼ばれる焼却処理である。これは、焼却時の熱を再利用する方法だが、実際にはリサイクルというよりも「燃やしてエネルギーを得る」ものであり、根本的なごみ削減にはつながっていない。さらに、食品ロスも深刻であり、まだ食べられるのに廃棄される食品は年間約500万トンに達する。これは日本人1人あたりが毎日お茶碗1杯分の食べ物を捨てている計算になる。こうした現状を見ると、日本のごみ問題は単に「分別を頑張ればよい」というレベルではなく、社会全体の仕組みや意識を変えていく必要があるといえる。また、レジ袋有料化についても調査を行ったところ、確かにスーパーなどでの袋の使用量は減ったが、その一方で家庭ではごみ袋としてレジ袋を再利用していた人が多く、有料化後は新たにポリ袋を購入するケースが増えている。つまり、表面上は0プラスチックの使用を減らしたように見えても、実際の使用量はあまり変わっていない。このことから、ごみ削減には「制度」だけでなく、「使い方の工夫」や「代替素材の活用」など多方面からの取り組みが必要だと考えられる。例えば、紙袋やバイオマスプラスチックなど環境にやさしい素材を導入する企業も増えており、こうした動きを社会全体に広げることが求められている。また、消費者一人ひとりがマイバッグを持参したり、詰め替え用製品を選んだりするなど、日常生活の中で意識的な行動をとることも重要である。

4. 結論

以上の考察から、ごみ問題を解決するには「出さない工夫」が最も大切であることがわかった。リサイクルに頼るだけでは限界があるため、①使い捨てを減らす、②食品ロスを減らす、③ごみを資源として活用する、といった取り組みが必要である。今後の課題は、国や企業だけでなく、私たち一人一人が「ごみを減らす生活」をどのように実行できるかという点である。実際にレジ袋を使わない取り組みが世界各国で行われている。フランスでは、レジ袋の使用を法律で禁止されていたり、他にもアメリカやオーストラリア、中国、バングラデシュ、ケニア、韓国などさまざまな国で使わないようにさせる取り組みが行われている。これらの点から日本でも紙袋を布教していけばこれらの問題を解決できると考えた。実際日本ではまだまだ使われていない。そこで生徒の皆さんにアンケートをとった。(図2)これからもっと紙袋を各地に伝えることでよりプラスチック問題解決に一歩近づくとと思う。

買い物する時にレジ袋は買っていますか？
◎ 87 回答

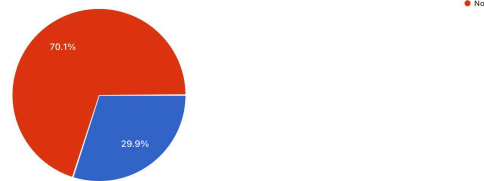


図2

5. おわりに

今回の研究を通して、私は自分自身が何気なくごみを出していたことに気づかされた。特に、コンビニで余分に袋をもらったり、食べきれない量を買ってしまったたりする行動がごみを増やしていた。これからはマイバッグやマイボトルを使い、食べ物を無駄にしないよう心がけたい。ごみ問題はとても大きな課題だが、自分の行動を変えることで少しずつ未来は変えていけると考える。また、今回の研究ではいくつかの限界がある。まず調査対象の人数が限られており、主に生徒中心にアンケートを行ったため、県の傾向や世代ごとの意識の違いを十分に集めることができたと言えない。地域や年齢、職業などによって、ごみに対する考え方や行動が異なる可能性があるため、今後はより幅広い層を対象とした調査が必要である。また、今回ではレジ袋を使う消費者に注目したが、企業や行政の取り組み、政策に関しては十分に分析できなかった。企業の行っていることや、自治体による制度の違いなどを詳しく調べることで、より確実な考察が可能になると考えられる。これから大学で幅広い世代の調査に臨みたい。

6. 参考文献・出典

・環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(最新データ)」

https://www.env.go.jp/press/press_04470.html

・農林水産省「食品ロスの現状」

https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spe1_01.html

・レジ袋の有料化を禁止してる国

<https://elemenist.com/article/2103>